

平成29年度第2回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 平成30年2月21日（水） 14:00～15:30
2. 場 所 山内図書館集会室
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー
千葉代表、貞廣副代表、横溝委員（欠席）、猪目委員、井上委員（欠席）、
松下委員、宮崎委員（欠席）、中川委員、徳栴委員、宮澤委員、高樋委員、
早乙女委員(欠席)

事務局

釜田（有隣堂本部）

古川館長、渡邊副館長、味元（山内図書館）

4. 案 件

- (1) 平成29年度の図書館の取組
- (2) 横浜市山内図書館平成30年度に向けて
- (3) ご意見、ご要望

5. 概要

(1)平成29年度の事業報告（古川館長）

平成29年度に行った事業についてパワーポイントを用いて説明。本年度は開館40周年にあたり、一年を通じて記念事業を行なった。

①やまちゃんお誕生会 4月16日(日)

マスコットキャラクター「やまちゃん」のお誕生会を開催。

おはなし会を行ったほか、年齢別に読書の福袋を用意して貸出、および特別バージョンのやまちゃんシールや読書ノートを配布。

②拡大版 あざみ野ブックカフェ 5月

井上ユリさん（料理研究家）と小島潔さん（岩波書店編集者）による対談。

③展示「この街の記憶」6～7月

青葉区の移り変わりを写真展示で紹介。山内図書館所蔵の写真のほか、ひろたりあんさんにもご協力をいただく

④講演会「大山信仰の諸相と大山道」 5月

大山信仰の研究者・川島敏郎氏（伊勢原市文化財保護審議会委員）による講演会。専門的な内容であったが、熱心な参加者が多く、終了後の質問タイムでも内容に関する深い質疑

応答がなされた。

⑤開館40周年記念 山内図書館館内ツアー 10月

普段は入室できない書庫などにも案内。書庫見学はアンケートでも満足度が高かった。

⑥開館40周年記念 「わたしの1冊」 9月～11月

図書館職員、スタッフ、ボランティアの方などが、おすすめの本を手にした写真を展示コーナーに掲示。前期、後期に分け、80人の方に登場してもらう。動画も作成、ホームページで見られるようにした。併せて、期間中紹介している本を展示したが、非常によく借りられていた。

⑦大型講演会 「ひとりを楽しむ人になる」 2018年2月17日開催

岸本葉子さん（エッセイスト）に一人の時間の楽しみ方をテーマに講演いただく。

⑧冊子「青葉区読書ガイド 本と出会える場所」の作成

例年1枚の紙の裏表で作成している貸出施設マップを、カラフルな表紙の冊子（A5判、16ページ）で作成、山内図書館、青葉区役所で配布した。

⑨なつのおはなし祭り 8月

山内図書館の事業の柱に育った夏の恒例行事。2日間に分けて開催、のべ800人が参加。

⑩ビブリオバトルの普及

旧年度から引き続きビブリオバトルの普及に努める。本年度は学校を中心にすすめた。

⑪ビブリオバトル&本棚編集 2017年12月2日

「あたたまる」をテーマにビブリオバトルを行ったあと、ビブリオバトルで紹介した本も含め、「あたたまる」をテーマに魅力的な本棚編集のワークショップを行った。

⑫牛込及び鉄の獅子舞見学 10月7日

例年行っている青葉区に伝わる郷土芸能の見学。

⑬映画「MARCH」上映会&トークイベント 5月

東大日本大震災復興支援ドキュメンタリー映画。被災地で活動する中学生のマーチングバンドの姿を追った映画を上映。上映後、監督とプロデューサーによるトークショーを開催。併せて、横浜FCに関する展示も行う。

⑭読書のイベントカレンダー

青葉区内の読書に関するイベント情報を掲載したカレンダーを毎月発行。2年目を迎える。山内図書館内で掲示、配付及び、山内図書館ホームページ、青葉区役所ホームページで閲覧可能。

⑮図書取次サービス

山内図書館での貸出冊数は微減の傾向にあるが、取次サービスの貸出は伸びている。駅のポストが経年劣化の状態にあり、補修が課題になっている。

⑯有料宅配

青葉区内の利用者を対象に郵送(着払い)で貸出を行っているが、利用は伸びている。

⑰託児サービス

毎月2回程度、託児を行う。利用料は1時間500円。リピーターの利用者が増えている。

⑱座席予約システムの導入

平成28年6月から導入。一部の席に時間制限を設け利用者に公平に使ってもらえるよう開始。

⑲新聞・雑誌コーナーのリニューアル

革張りの大きな椅子を移動、カジュアルなイスを増やし、座席数を増やす。コーナーなどに、光触媒人工観葉植物(消臭効果)を置いた。

⑳ティーンズコーナーの刷新

ティーンズコーナーを地図コーナーの一部にまで広げる。それに伴い、近隣の元石川高校の生徒に協力をしてもらい、壁面のディスプレイを担当してもらっている。昨年ティーンズ向けのホームページを立ち上げたが、そこでは月替わりで職員がおすすめの本を紹介している。

<委員からの質問>

- ・有料宅配の利用者は高齢者の方が多いのか？

図) 開始時は高齢者の利用が多いと推測していたが、実際は子育て世代の利用者が多い。送料は1回350円。なるべく何冊かそろったところで、送るようにしている。小さいお子さんをもつ家庭の利用が増えている。

- ・読書のイベントカレンダーは、ホームページ上で使いやすくなってよかった。

図)認知度がまだ低いので、認知度を高めるのが今後の課題である。

・座席予約システムの利用者は多いのか。

図)旧システムでは、一日中一人の方が同じ席を利用していることもあったが、時間制限を設けたので、多くの人に公平に使ってもらえるようになった。

・駐車場の利用方法の変更についてはどうか。

図)駐車券が必要な周知が浸透してきている。カウンターで駐車票を受け取り、車のダッシュボードに置いてもらっている。駐車票をおいてくれない人には、車のナンバー入りの注意書きをワイパーにはさみ、利用方法が変わったことを通知しているが、その注意書きをはさむ回数も減ってきている。

・長時間駐車する人は減っているか。

図)明らかに減ってきている。

(2)横浜市山内図書館平成30年度に向けて

2月24日(土)、25日(日)、27日(火)、28日(水)に利用者アンケートを行う。

利用者フォーラムやアンケートは、ニーズを直接知ることができ、サービスの充実や事業企画する上で、非常に役立っている。次年度もこれらの意見を基にサービスの充実を図りたい。今年度は周年にあたっていたので、大きく事業展開をしたが、来年度度は継続事業を中心に行う予定である。以下のようなことを計画している。

・本年度、視覚障害者向けのサービスとして朗読CDを増やしたが、好評で実績もあがっているため、来年度も引き続き、増やしていく。

・多目的トイレの扉を修理する(扉が重く、開閉がスムーズではないため)

・読書条例に添って、読書推進活動を青葉区役所子ども家庭支援課と協同で進めており、来年度は、ティーンズ向けのワークショップが開催できないかと模索している。

<委員からの意見>

・ティーンズコーナーが、対象としているティーンズにとどまらず、シニア世代にもよく使われているという話が出たが、自分のために借りているのか、それとも子どもや孫のために本を借りているのか?

図)ご自身のために借りている人が多いと思う。ティーンズコーナーの本は、導入となるよう分かりやすくまとめられているので、何かを知りたいとき使い勝手がよいのではないだろうか。

・大活字本は、現代の作家の作品も増えるともっと利用されるのではないだろうか。

- ・シニア向けの紙芝居、できれば唱歌が出てくる内容のものなどを増やしてほしい。

- ・ティーンズ向け以外で年代を意識して構成したコーナーはほかにもあるのか。

図) 児童コーナーに子育て支援コーナーを作った。小さな子ども連れのお母さんは一般コーナーを利用するのは気兼ねだという意見があり、児童架に子育て関連の本を並べるコーナーを作った。今年アンケートでは、どういうコーナーがあるとよいかという設問を設け、要望をうかがうようにしている。

- ・ティーンズに向けにコンピュータのプログラミング講座を行ってはどうか。

パソコン、ゲーム好きの子どもたちを取り込むため、タブレットを用意(持参)させ、プログラミング教育を行う。遊ぶためだけでなく、自分用のゲームを開発させたりして、知的作業へとガイドしてはどうだろうか。

- ・ある公共図書館ではマンガ本がたくさん並び、子どもたちでにぎわっていた。読書への入り口として、マンガ本を許容してもよいのではないか。

- ・現在は子どもが集まれる場所が少ない。図書館を子どもが集まる場所として活用できないか。

- ・集会室にマンガを集めて、一日マンガ祭りを開催するのはどうだろうか。とくに中学生くらいになるとタムロする場所が必要なので、本を読まなくても図書館に出入りしても良い「開放日」みたいな日があっても良いのではないか。図書館は静かにする場所だが、特別な開放日を設けて、集会室ではおしゃべり可、マンガも可、というのはどうだろう。

(3) ご意見・ご要望

- ・山内図書館で飲食できるのは、ウッドデッキのみとなっているが、冬季は寒いので、食事ができる場所があればよいと思う。

図) 図書館には食事ができるスペースがないが、同じ建物内の地区センターのロビーでは食事ができるので、ご案内している。

- ・郷土資料は現行の行政区分で分けられているが、歴史的には近隣地区は同じ文化圏であるので、隣接する地域(都筑区・川崎市麻生区・川崎市宮前区)の郷土資料も収集してほしい。他の区に1冊しかない資料であれば、コピーさせてもらうなどして閲覧できるようにしてもらえるとありがたい。

・ティーンズ世代を集めるには、ティーンズが主体となったものでないと集まらないのではないか。高校生たちにイベントを企画、主催してもらってはどうか。本好きの高校生に中学生向けの企画を考えてもらうのもよいかもしれない。また、現在元石川高校とコラボレーションをしているようだが、元石川高校以外、荏田高校、市ヶ尾高校、田奈高校など青葉区内の他校にも声掛けをしてみてはどうか。

配付資料:会議次第